

第14回 助成活動団体成果報告会 報告書 & 助成制度のご案内

開催日時：令和5年11月6日（月）午後1時00分～5時50分

開催場所：東京電機大学 千住キャンパス1号館100周年ホール



第14回 助成活動団体成果報告会報告書

令和5年11月6日(月)、「第14回公益信託あだちまちづくりトラスト助成活動団体成果報告会」を開催しました。
今回は、令和3年度及び4年度にまちづくり活動を行った団体のうち、20団体による成果報告を行いました。

目次

【発表団体】

No.1	隅田川の広い空を生かした親子向け星空観望会 小坂 亮輔	3
No.2	五反野地域の銭湯と飲食店を紹介するマップ作成 文教大学 清水ゼミナール	4
No.3	昔遊び・ベーゴマ教室 特定非営利活動法人 ベーゴマ普及協会	5
No.4	障がい者アート展覧会開催 Challenged Challenge	6
No.5	地域のペットの犬と人との共生事業 NPO法人 わんわんサポーター綾瀬	7
No.6	第5回足立区ギャラクシティ音楽コンクール開催 特定非営利活動法人 あだち音楽文化の会	8
No.7	地口行灯×ずぼんぼ まちのあかり 古川 朋弥	9
No.8	「花畑運河の歴史 図録」制作 特定非営利活動法人 エコロジー夢企画	10
No.9	自助、共助のまちづくり防災番組制作 防災ラジオ足立区準備室	11
No.10	地域の誰もが自分の意志で訪れることのできる居場所としての駄菓子屋 特定非営利活動法人 Chance For All	12
No.11	地域の歴史文化を伝える取り組みに関する活動 路地裏アートプロジェクト in 西新井大師	13
No.12	シティコンポストプロジェクト あだちコンポスト委員会	14
No.13	足立区における「子ども第三の居場所」コミュニティモデル事業 一般社団法人 チョイふる	15
No.14	子どもたちが表現を吸収する場所 ～子ども表現堂 一般社団法人ほしかぜ	16
No.15	子どもの居場所と朝食提供事業 第7地区子どもの居場所づくり実行委員会	17
No.16	第18地区(中川地区)における町会・自治会タイムラインの作成 第18地区水害対策委員会	18
No.17	あだち子どもの日本語教室 特定非営利活動法人 メタノイア	19
No.18	千住QR観光振興事業 NPO法人 千住文化普及会	20
No.19	千住地域での映画制作及び上映事業 知らない路地の映画祭制作委員会	21
No.20	はなはた文教マルシェ はなはた文教マルシェ実行委員会	22

【書面での報告団体】

No.21	足立区音楽祭 足立区音楽祭実行委員会	23
No.22	てらまちハウスぽけっとパーク 足立区竹ノ塚ママとベビー・キッズのコミュニティKoen	23

【街並み空間・自主管理歩道コース】

No.23	フラッツ北千住管理組合 / No.24 レコシティ・グランデ管理組合	24
No.25	シテヌーブ北千住30団地管理組合法人 / No.26 トーキョーガーデンズスイート管理組合	24

助成活動団体一覧	25
公益信託あだちまちづくりトラスト 助成制度のご案内	26



開会挨拶

(清水委員長)

本日は、お集まりいただきましてありがとうございます。皆さまには、日頃から足立区の抱える課題や、活性化に関してご尽力いただきまして、誠にありがとうございます。今日は、その活動の成果報告会ということで、大変楽しみにしています。

2023年になりコロナによる行動制限も緩和され、活動もしやすくなってきたのではないのでしょうか。トラストの助成自体には期限がありますけれども、引き続き足立区の課題解決、活性化に向けてご尽力いただければと願っています。簡単ではございますが、開会のご挨拶にかえさせていただきます。

No.1 小坂 亮輔

隅田川の広い空を生かした親子向け星空観望会

発表者

小坂 亮輔さん



学生コース

申請額・助成額

100,000円

助成金の主な使いみち

手作り望遠鏡(100個)製作にかかる物品購入費



▲発表当日の小坂さん

活動の目的

帝京科学大学は、隅田川の横にあり川沿いには東京都心部とは思えない広い空が広がっています。その広い空を利用して、幼稚園から小学校までの子どもを対象とした親子向けの星空観望会を季節ごとに、天文に興味・関心をもってもらいます。

活動内容

隅田川沿いの広い空を生かして、2022年5月と2023年2月に親子向けの星空観望会を開催。2月の観望会では手作り望遠鏡の製作も行いました。5月の観望会には、子どもと保護者を合わせて約30組60名、2月の観望会には約15組30名の参加がありました。参加者には月のクレーターや三日月形の金星を見ていただきました。



活動の成果

帝京科学大学における星空観望会は、回を重ねるごとに地域に定着してきましたし、地域の団体（町会やマンション管理組合など）の協力を得ることもできました。また、望遠鏡による月と惑星の観察だけでなく、新たに手作り望遠鏡製作のノウハウを得ることもできました。



次回活動に向けて

今回の星空観望会の実績により、2023年度は当大学の地域連携予算を得ることができ、星空観望会をこれまでに2回開催することができました。今後もこの活動を継続していくとともに、地域の学校に広げていくことを予定しています。



▲手作り望遠鏡製作の様子 2月①



▲手作り望遠鏡製作の様子 2月②



▲観望会の様子 5月①



▲チラシが貼られた町会の掲示板

運営委員会からコメント

地域の人と人をつなぎ、科学の楽しさを体感できるイベントを

地域の方々や子どもたちに科学の楽しさを無料で提供する機会を作っていただけたこと、本当によかったなと感じています。今後もこのような活動を続けていっていただきたいと思います。まずは予算の確保の仕方を工夫して、地域の子どもたちや親御さんたちと一緒に活動の輪を広げていっていただければと思います。そうすることで、帝京科学大学の大学名にもあります科学という部分に関しても内外に発信できると思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

五反野地域の銭湯と飲食店を紹介するマップ作成

発表者

武田 真奈さん(左)

穴戸 美紀さん(右)



学生コース

申請額

90,000円

助成額

8,735円

助成金の主な使いみち

銭湯・飲食店を紹介するマップ
(100部)印刷費

活動の目的

減少傾向にある銭湯の文化を継承すること、また、銭湯の魅力を若者へ発信することで五反野の活性化を目的に活動します。五反野の銭湯とその周辺の飲食店の地図を制作し配布することで、集客と認知度向上を目標とします。

活動内容

銭湯という地域の伝統文化を継承するため、ターゲットを若年層に設定し、五反野地域の銭湯の動画紹介とともに飲食店を含めたマップの制作を行い、文教大学や各店舗などに掲示しました。その効果を測るためにアンケート調査も実施。加えて現地調査を行いながら商店街の会議や地域イベントへも参加しました。



▲発表当日の武田さんと穴戸さん

活動の成果

マップに掲載したアンケートの結果によると、全体の約72%の人が、マップを見て五反野の飲食店または銭湯に訪れたいとの回答でした。その中で実際に五反野を訪れたのは約62%で、うち75%の方が、五反野以外に住む人でした。この結果から、少なからず地域以外の人に五反野の魅力を伝えることができたと考えられます。

次回活動に向けて

今回は、掲載期間が短く、掲載範囲も限られていたため、広範囲には魅力を伝えることができませんでした。また、アンケートでは、地図の精度についての指摘やQRコードの読み取りが手間であることなど、改善を要望するご意見もありました。今後、同様の活動をする際には、この反省を活かし取り組みでいきたいと思っています。



▲MAPに掲載する飲食店の選定を行っている様子



▲常磐湯さんを撮影させて頂いている様子



▲手書きオリジナルで可愛さを表現し、目に留まりやすいMAPをコンセプトに制作



▲MAP上のEUREKAのQRコードを読み込むと出てくるチラシ

運営委員会からコメント

五反野の魅力を内外に発信するオリジナルマップ

ご報告から一生懸命活動していただいたことが感じられました。今回、33名の方からアンケートの回答が得られたという点、サンプル数をもう少し増やしたいと思うところではありますが、五反野地域外に住む方の回答もあり、実際、地域外から商店街に人が訪れていることは、この事業のおかげかなと感じています。アンケートでは、このマップのあり方やオリジナリティへの評価がある一方、なかには厳しい意見もあったとのことでした。これは、皆さまからの率直な意見だと思いますので、こちらも参考にしながら、今後の活動にうまく活かしていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

昔遊び・ベーゴマ教室

発表者

有澤 次男さん



身近な活動コース

申請額・助成額

300,000円

助成金の主な使いみち

貸出用ベーゴマセット(200個)
購入費、チラシ・ポスター印刷
費、レンタルボックス賃借料

活動の目的

昔遊びベーゴマ教室を通じて、世代をつなぎ、地域住民をつなぎ、伝統文化をつなぐことを活動理念に、ベーゴマ指導を通じ地域住民、高齢者、子どもたちの居場所づくりに取り組んでいきます。



▲発表当日の有澤さん

活動内容

「高齢者は元気で楽しく、子どもたちはのびのび健やかに友だちと楽しく」昔遊びベーゴマ教室を通じて、足立区の魅力づくりをしています。助成金の活用により、地域商店街、企業、地域住民を巻き込んでの昔遊びベーゴマ教室普及活動の輪が広がり、学校・学童などからの教室開催の依頼も増えています。

活動の成果

西新井さかえ公園でベーゴマ教室を38回開催、延べ参加者1835人。児童館では24回開催、延べ参加者735人。学童では36回開催、延べ参加者1152名。関三商店街イベントにて、2日間開催、延べ参加者345名。合計参加者4067名、地域の中で世代をこえた交流が生まれ、まちの活性化に貢献できました。

次回活動に向けて

ベーゴマを通じて「世代をつなぎ、地域住民をつなぎ、伝統文化をつなぐ」を活動理念に、商店街、町会、企業と連携し、高齢者と子どもたちの居場所づくりを続けていきます。今後も助成金を活用しながら、地域交流の活性化を促し、豊かなまちづくりに寄与していけたらと考えています。



▲子どもに教える代表



▲子どもと戦うスタッフ達



▲公園でのベーゴマ教室



▲ベーゴマの戦い

運営委員会からコメント

伝統文化の継承を通じて、世代、地域をつなぐまちづくり

コロナ禍においても工夫をこらした感染対策でイベントを開催されていることに関心いたします。活動においては、世代のつながり、地域のつながり、また伝統文化の継承など、しっかりと実績をあげられています。教室では、子どもたちがベーゴマをまわす時、一喜一憂するなかで自己主張すること、また一体感が生まれることなどを大切にされていますが、どれも必要なことだと思います。今後も、ベーゴマ教室の活動を通じた、ひきこもりがちな高齢者や子どもたちの居場所づくり、世代をこえた交流の活性化により、まちづくりに貢献していただけたらと思います。これからも元気に活躍されることを心から期待しています。

No.4 Challenged Challenge

障がい者アート展覧会開催

発表者

山 桃子さん



身近な活動コース

申請額

300,000円

助成額

247,189円

助成金の主な使いみち

ポスター・チラシ作成・印刷費、
展覧会会場使用料、ワーク
ショップ講師謝礼金

活動の目的

障がい者支援活動を通し、地域と障がい者のコミュニティ形成に寄与することを目指しています。

活動内容

足立区を中心に障がい者支援活動を行っています。コロナが落ち着いたため、作品のリアル展示イベントを開催。同時に足立区内外の障がい者支援施設から作品や商品を集めて販売するマルシェを開催しました。SNSでは障がい者のアート作品の映像を公開しました。



▲発表当日の山さん



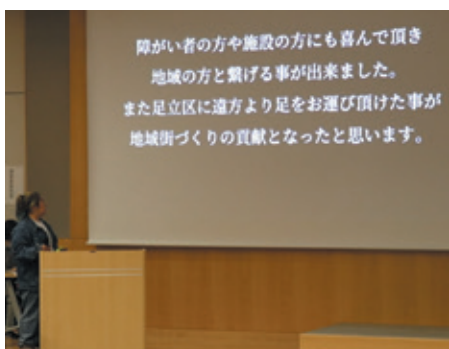
活動の成果

令和5年2月の作品のリアル展示イベントには60名の方が来場。足立区からだけでなく、東京都心や茨城、関西地域から足を運んでくださる方もいて、多様性を認められるまち・足立区をPRすることができました。SNSでも動画を公開し、たくさんの方に障がい者のアート作品を見ていただく機会をつくることができました。



次回活動に向けて

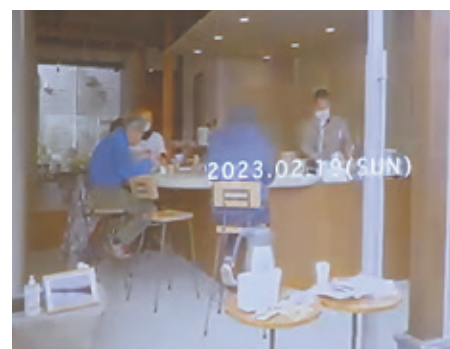
アート作品や商品を販売するマルシェやアート作品展の参加者を増やしていくことでイベントの規模を拡大し、まちと障がい者の方がつながれる環境づくりをしていきたいと思います。足立区＝多様性のまちというイメージの定着を図り、足立区を観光の場にすると同時に、障がい者アーティストの作品でまちを彩っていきたくて考えています。



▲映像発表の様子



▲アーティスト作品



▲西新井で開催されたマルシェ



▲マルシェで販売された商品

運営委員会からコメント

インクルーシブな活動で多様性のある足立区の発信

こうしたインクルーシブな活動は、世界的にも広がっていて、その活動を足立区西新井から発信できていることはとてもよい取り組みだと思います。今後は、障がい者の方以外にも低所得者の方などに取り組みを広げ、さらにインクルーシブで多様性のある足立区の発信により地域が活性化し発展していくような、そんな社会を目指していただければと思いました。SNSなどでの発信により、関係者以外にも、絵や作品に興味のある方など、多様な方が訪れ、活動自体を喜んでくださる方もたくさんいらっしゃるとのこと。このような活動が、障がい者の方の自立支援にもつながれば、よりよいかなと思いますので引き続きよろしくお願いいたします。

地域のペットの犬と人との共生事業

発表者

石田 富美子さん(左)

藺田 深雪さん(右)



身近な活動コース

申請額・助成額

300,000円

助成金の主な使いみち

ホームページ制作費、パンフ・チラシ等制作・印刷費、ドッグトレーナー等謝礼金



▲発表当日の藺田さん

活動の目的

地域の人と犬との共生、地域の活性化とコミュニティ形成に寄与します。まちの防犯活動、災害時の避難対応等に寄与します。

活動内容

地域社会とペットである犬との共生や動物の福祉と、健康のための環境エンリッチメント(注)の向上を目指して活動しています。都立東綾瀬公園との協働で「東綾瀬公園でのゴミ拾い活動」、綾瀬警察署生活安全課防犯係と足立区危機管理課防犯まちづくり係との共催で「わんわんパトロール講習会」、その他「わんサポ交流会」「わんサポセーフティネット」を開催しました。

イベント14回(参加者221人)

(注) 動物の福祉向上のため管理方法等を生息環境や行動に基づいて改善・向上させるための工夫のこと。



活動の成果

2022年度は、ホームページ、パンフレット、紹介カードを作成して広報に力を入れた結果、各所から声がかかり、さまざまな活動を行いました(NPO活動支援センターでの団体紹介や冊子掲載依頼、図書館での子どもたちとの交流など)。また、綾瀬警察署より、パトロール隊に参加している当会会員3名に防犯功労賞が授与されました。



次回活動に向けて

ペット防災や動物行動学に基づき団体の専門性を高めて活動を深化すると同時に、イギリスの公園で毎週末に行われているドッグトレーニングの開催を目指します。今後は、会員数を増やして継続性を高め、犬を介した地域のコミュニティづくりをしていきます。



▲綾瀬警察署生活安全課、足立区危機管理課危機管理部防犯まちづくり係との講習会



▲「交流会」3～5月、10月～12月
東綾瀬公園の一面をお借りし、柵を設置して実施



▲「ゴミ拾い活動」3月～5月、10月～12月
第2日曜日に活動



▲都立東綾瀬公園で行われた防災フェスタでの展示

運営委員会からコメント

地域のコミュニティづくりから、地域防犯への貢献も

世の中には、どうしても犬が苦手という人もいます。これはもう仕方のないことだと思ってしまうのですが、多様な人がいる中で、地域の方たちの理解を得てNPO法人としてしっかりと活動されていることに、あらためて敬意を表します。ご報告によると、防犯防災の意識を持ち活動する中で、綾瀬警察署より防犯功労賞の感謝状をいただいたということですが、本当に素晴らしいことだと思います。今後もできることから取り組んでいただきたいと思います。また、何より安全が第一ですので、決して無理はなさらず活動を継続していただければと思います。

第5回足立区ギャラクシティ音楽コンクール開催

発表者
田中 雅也さん



身近な活動コース

申請額・助成額

300,000円

助成金の主な使いみち

オーケストラメンバー謝礼金
(21名) 1回

活動の目的

足立区ギャラクシティ音楽コンクールを開催し、足立区全域を対象とした音楽文化の普及に寄与します。



▲発表当日の田中さん

活動内容

NPO法人あだち音楽文化の会は、任意団体として足立区全域を対象とした音楽文化の普及に関する活動を行っています。平成30年に足立区で開催したクラシック音楽コンクールは、令和4年に足立区長より認可を受け「足立区ギャラクシティ音楽コンクール」として継続発展しています。



活動の成果

「足立区ギャラクシティ音楽コンクール」により、クラシック音楽をたしなむさまざまな世代の方に、習得した技術を披露する身近な環境を提供できました。地域の方が音楽文化に親しむ機会が増え「クラシック音楽のまちのあだち」が徐々に浸透していくことで、足立区のまちづくりに貢献できたと思います。



次回活動に向けて

今後は「足立区ギャラクシティ音楽コンクール」を永続させるために区とも連携しながら、事業の自立を目指します。そのためにまず、令和9年をめどとし、協賛企業数とコンクール参加者数を増やしていくことに努めます。



▲コンクール入賞した子どもたち①



▲コンクール入賞した子どもたち②



▲記念演奏会でオーケストラとの夢の共演①



▲記念演奏会でオーケストラとの夢の共演②

運営委員会からコメント

これからも音楽と気軽に触れ合えるまちを目指して活動を

私も含め、クラシック音楽を聴く機会に関して、なかなかきっかけがないというのが実情です。現状、クラシック音楽コンクールの来場者という、出演する方やその関係者が多いかと思います。そこで、ぜひ関係者以外の人を呼び込む工夫をしていただきたいと思います。事業のタイトルの「本気で足立区を音楽の息づくまちへ」との理念があるのであれば、ぜひ開かれたクラシックコンサートの場にしていただければと思います。また、最近ストリートピアノなどが注目されていますが、まちの中で気軽に音楽と触れ合える機会を、もっと作っていただければありがたいなと思っています。

No.7 古川 朋弥

地口行灯 × ずぼんぼ まちのあかり

発表者
古川 朋弥さん



身近な活動コース

申請額・助成額

300,000円

助成金の主な使いみち

地口行灯・ずぼんぼ等(20個)
展示品製作費、イベントチラシ
印刷費

活動の目的

地口行灯と江戸の伝統玩具ずぼんぼを紹介する展示イベントを開催し、地域住民やまち歩き等で北千住を訪れる方に江戸時代を起源とした遊び心あふれる庶民文化・千住周辺のまちの魅力を発見してもらいます。

活動内容

千住の文化サロン「仲町の家」のパイロットプログラムとして、吉田絵馬屋さんの地口絵を用いた地口行灯と江戸の伝統玩具「ずぼんぼ」の展示イベントを開催しました。地域の方やまち歩きで北千住を訪れる方など、幅広い年代の方々に遊び心あふれる下町文化、千住周辺のまちの魅力を発見してもらうための取り組みを行っています。



▲発表当日の古川さん



活動の成果

吉田絵馬屋さんの地口絵を行灯に仕立て、「ずぼんぼ」と共にLEDライトを使った光の演出で、風流な江戸の文化をアートとして楽しむ場を提供。また、「千住いえまち」の主催する「地口あんどんプロジェクト」に参加することで、地域文化の魅力を伝えること、文化継承に向けた取り組みの第一歩を踏み出すことができました。



次回活動に向けて

制作時に近隣の町会長さんから「地口行灯をどのように活用し継続するかは人それぞれ。できる人が活動するのがベスト」と励ましの言葉をいただきました。仲町の家が集まった参加者、制作メンバーと「地口あんどんプロジェクト」に参加した結果、地域文化とのよい関係が生まれ、長期的な活動への展望も開けました。



▲地口行灯の組み立てと和紙の貼り付け



▲仲町の家でのイベント(TRiP-浮世絵×落語-)でも使用



▲仲町を家の玄関先に吊るした電飾ずぼんぼ



▲まちのあかりちらし

運営委員会からコメント

地域の子どもたちも巻き込んで、さらなる広がりを

地域の歴史的、文化的なものを引き継いでいくことは非常に重要な取り組みですし、千住に残る重要な文化財を活用して、まちづくりを進めていただくことは地域のPRにもなります。報告によると千住いえまちのプロジェクトにも参加されていて、今後も連携して活動されるとのこと、期待しています。また、仲町の家でのPR也非常に重要で、地域の方と連携し、歴史や文化を継承していくことが、まちづくりにもつながっていくと思います。今後は、地域の子どもたちも巻き込んで展開していただくと、活動がさらに広がるのかなと思いますので、ぜひ、いろいろなところと連携してPRに努めていただければと思います。

「花畑運河の歴史 図録」制作

発表者
三井 元子さん



はばたき支援コース

申請額・助成額

2,000,000円

■ 助成金の主な使いみち

図録(300冊)作成費、講師・執筆謝礼金

活動の目的

花畑運河開削の決定に至る行政資料や舟運についての文献・写真・絵画等の文化資料を集めて図録を作り後世に残し、地域の誇り高い歴史を知ることにより、地域の活性化とコミュニティ形成に寄与することを目指します。

活動内容

花畑川に関する系統的な資料がないこと、足立区郷土資料としてだけではなく全国の河川史としても後世に残したいと考え『花畑運河の今昔ー荒川放水路の歴史・産業遺産ー』を編集発行しました。また、「祝・花畑運河開削90周年」の横断幕を水門に掲げ、喜びを周知するための講演会(75名参加)と子どもたちのための屋外イベント(六木第四公園と花畑川での開削90周年イベント/150名参加)を行いました。



▲発表当日の三井さん

活動の成果

花畑運河が近代都市計画法に基づき新規開削された最初の運河であることが証明されました。また地元住民の強い要望と労働により完成したこと、雪月花の橋の名づけの由来なども判明しました。コロナ禍に2度開催した講演会には、計102名が参加。イベントでは子どもたちがボートやカヌー、土木系の競技や工作を楽しみました。

次回活動に向けて

作成した図録『花畑運河の今昔』を、足立区の小・中学校と図書館及び郷土博物館に寄贈しました。今後は、花畑川近隣の小・中学校で郷土の歴史の出前授業や、生き物調査なども実施し花畑川に親しんでもらう活動を続けていきます。今回の書籍には、イベント報告などの内容も掲載しましたが、純粋な河川史として文庫版出版も検討しています。



▲水門に90周年横断幕設置



▲3月5日シンポジウム
「花畑運河の今昔、そして未来へ」



▲3つのイベントパンフレット

運営委員会からコメント

学術的な証拠に基づく河川史に残る貴重な資料の完成

完成した「花畑運河の今昔」は、花畑運河の歴史、産業などが学術的な証拠に基づいてよくまとめられています。この資料を、区内の小中学校、図書館に寄贈されたことは、素晴らしい取り組みだったと思います。現在、区の事業で、花畑運河の再整備を行っています。新しい花畑運河とその歴史が融合していくと、また新たな展開も生まれるかと思いますので、引き続きよろしくお願いします。



▲舟の運河においでよ！E ボート・カヌー体験

No.9 防災ラジオ足立区準備室

自助、共助のまちづくり防災番組制作

発表者

渡部 郁子さん



はばたき支援コース

申請額

1,600,000円

助成額

1,004,773円

助成金の主な使いみち

番組制作委託費（日頃からの備えに関する番組をYouTubeにて公開）、キャンプ備品購入費

活動の目的

メディアが持つ「災害前」の情報発信に取り組み、日頃から地域住民に「防災マインド」を伝えることで「災害に強いまち足立区」に寄与することを目指します。

活動内容

「災害に強いまち足立区」を理念に掲げ、地域防災メディアの構築、防災をテーマにした情報収集と情報発信、地域自治体と連携・協働体制でのコミュニティの構築により、地域社会の防災力向上を図る活動を行っています。



▲発表当日の渡部さん

活動の成果

今回、トラスト助成を受け、地域の防災情報コンテンツの制作と防災メディアの構築に取り組みました。また、地域社会の防災力向上を目的に親子を対象とした防災キャンプ（10名参加）を実施しました。

次回活動に向けて

今後は、このメディアを中心にコミュニティの構築を目指します。まずは、メディアの構築からコミュニティの構築を進めるにあたり、さらなるコンテンツの拡充やメディア力の強化に向けて取り組んでいきたいと思っています。また、防災キャンプの開催数を増やし、地域の防災力向上の機会を増やしていきたいと考えています。



▲音声コンテンツのYouTube チャンネル



▲海外向けラジオ放送立上げ支援事業



▲防災キャンプの様子①「テント張り」



▲防災キャンプの様子②

運営委員会からコメント

肌感覚で理解できる動画で、災害に対する備えを

防災ラジオ足立区準備室のYouTube動画では、多様な人がいて、それぞれのポジションで、災害への備えが違うということがわかりやすく紹介されています。視覚障がい者の方や、肢体不自由者の方へのインタビューなどもあり、危機管理の観点から、災害に対する準備がていねいに語られており、参考になる内容だと思います。私はペットを飼っていますが、直近の動画では、ペットの避難についても紹介されていて大変勉強になりました。防災キャンプの開催を含め、こうした取り組みを、今後もぜひ続けていただきたいと思います。

地域の誰もが自分の意志で訪れることのできる 居場所としての駄菓子屋

発表者

廣瀬 陽香さん(左)

平 里菜さん(中央)

中山 勇魚さん(右)



はばたき支援コース

申請額・助成額

2,000,000円

■ 助成金の主な使いみち

会場賃借料、運営委託費

活動の目的

子ども自身が自分の意志でいつでも来ることのできる場所を作ります。多世代がちょうどいい関わりをすることで、地域の子どもたちを見守る環境を作ります。ありとあらゆる人が関わることで地域のつながりを増やしていきます。

活動内容

「何をしても良いし、何をしなくても良い場所」をコンセプトに、子どもたちが自分の意思で通える、第三の居場所としての駄菓子屋を運営。駄菓子屋という昔ながらの場所を交流拠点として、地域の方々、保護者の方々、運営する学生など、さまざまな大人が子どもたちを見守っていただける地域の駄菓子屋さんを目指して活動しています。

駄菓子屋「irodori」(延 約18,000人/年)



▲発表当日の平さんと中山さん

活動の成果

地域で子どもたちを見守る体制を強化するため、地域とつながり、商店街等さまざまなコラボ活動を行いました。地域と子どもたちをつないだ季節のイベント(夏祭り・クリスマスなど)を通し、子どもたちの笑顔で商店街を活気づけることができました。また、活動拠点の関原地区のほか、さまざまな地域へのイベント参加により、子どもたちと地域の方とのつながりを広げることができました。

次回活動に向けて

理念に共感して一緒に活動する仲間を増やし、学生チームのできることの幅を広げていきます。今後も居場所としての質を高めると同時に、地域に開かれたイベントを企画し、まだアクセスできていない子どもたちに居場所を見つけるきっかけを届けます。また、活動拠点に留まらず、外に出ることで地域を盛り上げていきたいと思っています。



▲子どもが店頭で駄菓子を選んでいる様子



▲irodoriの1周年を記念して行われた夏祭りイベント



▲12月24日、25日にクリスマスイベントを開催

運営委員会からコメント

区との連携で、さらなる事業の発展に期待

児童養護施設の方や不登校の子どもたちも仕組みを作って呼び込みたいというお話でしたが、足立区も今、同じような問題を抱えていますので、ぜひ対応をしていただければと思います。ご報告によると訪れる子どもたちの数が増えているようですが、活動の一番の問題点は、家賃の比重が高く運営費のほとんどを占めている点ではないでしょうか。このあたり工夫が必要ですが、提案としては、区と連携して、空き家や暫定用地などを上手に利用して負担を抑えることができないか研究することです。今後は行政、地域、高齢者の方などと連携して、活動の発展、継続に努めていただければと思います。



▲月に一度実施している学生チームでの勉強会

地域の歴史文化を伝える取り組みに関する活動

発表者
高橋 純子さん



はばたき支援コース

申請額

1,260,000円

助成額

1,048,229円

助成金の主な使いみち

イベントでの舞台設営工事費、
チラシ作成・印刷費、講師・出演団体謝礼金

活動の目的

高齢者の孤立ゼロを目指します。多世代の交流をアートやダンス文化でつなげ、地域活性化とコミュニティ形成に寄与することを目指していきます。

活動内容

アートで盛り上げる西新井大師北参道、写真を撮りたくなるシャッターアート、アートとしてのダンス、クラフト作家さんのいるまちでのクラフトづくり、学生によるバンドライブ、高齢者と一緒に活動するふれあいサロンなど、西新井大師裏に地域の文化を創造し、このまちに住んで良かったと思える、つながりづくりをしています。



▲発表当日の高橋さん



活動の成果

令和4年10月30日、西新井大師北参道にてハロウィンまつりを開催（500名参加）。令和5年3月21日には、西新井第二小学校でダンス発表・障がい者の方のフラダンス・バンド・クラフト作家の作品展などを実施しました（2500名参加）。メディア効果で参加者が増加、地域包括センターや社協などの協力も得ることができ関心の高まりを実感しています。



次回活動に向けて

令和5年11月4日、多世代交流祭りを近隣の企業と一緒に新西新井公園にて開催。令和5年11月23日、皿沼小学校でのダンスパフォーマンス開催。令和6年3月22日には、西新井第二小学校にてダンス発表・クラフト作家の作品展を提案しています。今後は、地域の企業や町会と連携し、活動の幅を広げていきたいと思っています。



▲西新井大師北参道 クラフトの様子



▲西新井大師北参道 クラフトの全体



▲西新井大師北参道 バンドの様子



▲西新井大師北参道 キッチンカーの様子

運営委員会からコメント

たくさんの人を巻き込み、さらなるまちの活性化を

活気のある映像とともにご報告いただいて、活動の様子がとてもよくわかりました。また、子どもから高齢者までを対象とした、さまざまなイベントを開催していて、まちの活性化にしっかりと貢献されているなど実感しました。次のステップとしては、企業や町会の方などを、どんどん巻き込んでいただいて、ぜひこの活動を事業化していただければとの感想を持ちました。今後ともよろしくお願いいたします。

シティコンポストプロジェクト

発表者
石村 大輔さん

はばたき支援コース

申請額

1,950,000円

助成額

845,137円

■ 助成金の主な使いみち

ワークショップ場所代、畑・農業講師謝礼金

活動の目的

生ごみが堆肥化され、その肥料を使った有機野菜を収穫、食べてみるまでの資源循環の過程を通して、地域内コミュニティやそのつながりをつくっていくことを目標にしています。

活動内容

足立区内で生ごみを収集・資源利用して堆肥を作り、有機野菜を栽培するプロジェクトを行っています。地域内のつながりの活性化と食を通じたコミュニティ形成を目的とし、生ごみを管理する1次処理、収集して完熟堆肥とする2次処理、そして堆肥を畑に施用して有機野菜を収穫しています。活動は2021年にスタートしました。



▲発表当日の石村さん



活動の成果

少しずつではありますが足立区界隈で活動が認知されるようになりました。東日本都市開発が手がける「ポケレス」でのイベント開催、竹の塚まちづくりラボ「ミントポ」でコンポストを使ったレクチャーとワークショップを行いました。普段の生活から生ごみがなくなる効果を感じる参加者も多く、意識改善につながっていると思います（イベント・ワークショップ参加約30家庭）。



次回活動に向けて

参加者が徐々に増えていますが、コンポスト事業を都市で継続して行うことが難しいとわかるなど、今後の課題も見えてきました。今後は、工程数を減らし継続して進めていける仕組みを考えていく必要があります。また、来年度予算にも計上していますが、コンポストケースの改善をデザイナーと協力して行っています。



▲堆肥仕込みの日。各家庭のコンポストケースは特色があって面白いです



▲堆肥の発酵期間は1〜2週間に1度水分量を見ながら切り返し作業を行います



▲昨季完成した堆肥を使って野菜作り

運営委員会からコメント

生ごみ処理の効果やメリットの発信で意識改革を

生ごみは、どこの家庭からも出るもので、誰もが考えていかなければならないテーマだと思います。私も生ごみ処理機を10年以上使っているので、この取り組みには賛同できますし、一緒に考える人をどんどん増やしていただければと思いました。生ごみ処理機は、加熱分解や微生物分解により生ごみを処理乾燥して扱いやすい状態にしてくれます。個人的な感想ですが、この過程が心地よいといいますが、匂いや虫などトラブルも解消してくれます。このようなメリット、日常生活で、こうする方がいいよね、というようなメッセージみたいなものをうまく伝えられたら、さらに賛同する方が増えていくのかなと思いました。



▲トマト・大葉・とうもろこしなど楽しく収穫

No.13 一般社団法人 チョイふる

足立区における「子ども第三の居場所」 コミュニティモデル事業

発表者
井野瀬 優子さん



はばたき支援コース

申請額

2,000,000円

助成額

1,983,080円

助成金の主な使いみち

業務委託費、会場賃借料

活動の目的

地域から孤立しがちな子育て家庭に対し、家でも学校でもない第三の居場所活動「あだちキッズカフェ」を提供します。

活動内容

地域で孤立しがちな困窮子育て家庭を対象に、子ども食堂に遊びの体験をプラスした居場所を提供。地域住民、NPOと協力しながら地域で子育てできるまちづくりを行っています。また、令和5年5月からは、オンラインでつながる「あそば〜す」を開始。困窮子育て家庭と多面的につながり、必要な支援を届ける活動をしています。



▲発表当日の井野瀬さん



活動の成果

活動2年目となり、地域から孤立しがちな困窮子育て家庭が、子ども食堂に継続して遊びに来てくれるようになりました。また、オンラインでつながる「あそば〜す」開始により、不登校等で家に引きこもりがちな子どもたちとつながる手段も確立。今後も、利用者のニーズに寄り添うつながりの構築を進めていきます。



次回活動に向けて

令和5年6月より千住仲町にて多国籍食堂「旅カフェ」を始めました。令和6年1月には中央本町に新たな拠点をオープンする予定です。今後は地域の方と連携し、地域で子育てができる居場所を各所につくり、子どもたちが自分の足で居場所に遊びに来られるようにすることが目標です。



▲子ども食堂のごはんの一例



▲みんなで餃子を包んでいる様子



▲旅カフェの様子



▲クリスマス・イン・ザ・シティを手伝ってくれたボランティアさん一同

運営委員会からコメント

拠点の追加で広がる子どもたちの居場所づくり

これだけの規模の事業を運営していくのは大変なことだと思いますが、現在、80名以上の方がボランティアに登録されていて、困窮子育て家庭を対象に、その居場所づくりに尽力されていること、とても素晴らしい取り組みだなと思います。先ほどのお話にもありましたが、伊興本町を拠点に、令和6年1月には、中央本町に新たな拠点を立ち上げること。こうして新しい居場所ができることにより、助かる子どもたちがたくさんでくるといいますので、今後も事業の発展継続に向けて、頑張っていきたいと思っています。

子どもたちが表現を吸収する場所 ～子ども表現堂

発表者

山川 久美子さん(左)

伊勢 希美さん(右)



はばたき支援コース

申請額

890,000円

助成額

779,786円

助成金の主な使いみち

ワークショップ開催チラシ印刷費、講師謝礼金

活動の目的

子どもたちが生まれ育った環境に関わらず、等しく文化芸術に親しみ、様々な表現方法に触れあい学ぶことで、豊かな心と表現力を育む「居場所」となることを目指します。

活動内容

梅島及び西新井周辺地区の学童期の子どもを対象に、月1回程度、プロの表現者を講師に招きワークショップを実施。舞台体験、演劇、マジック、ダブルダッチ、キックボクシング、声優、盆踊り、夏休み自由研究スペシャル（藍染、料理、ミニブック制作）と、さまざまな表現に触れる機会を提供しています。



▲発表当日の伊勢さんと山川さん



活動の成果

登録者数146名、延べ451名の子どもが参加し、学校や年齢の異なる子どもたちの交流が生まれました。プロの表現を体験するだけでなく、学校や学年の異なる子ども同士の交流に加え、保護者同士が交流できる居場所としても機能。まちづくりの観点からも一定の効果が得られていると思われます。



次回活動に向けて

活動に興味を持った保護者の方が、子どもたちに呼びかけ参加を促しているケースが少なくないことがわかりました。現状、区の施設を利用しているため会場を確実に確保することが難しいのですが、今後は、公園開催や法人の別イベントと連携しての開催など、子どもたち自身が気軽に参加できる活動にしていきたいと思います。



▲キックボクシングワークショップ
(講師：瀧沢博人氏)



▲ほしかぜワークショップ
(講師：ほしかぜ代表理事 KAEDE)



▲舞台体験ワークショップ



▲藍染ワークショップ（講師：山本愛子氏）

運営委員会からコメント

人づくりにもつながる表現者と接する貴重な体験

学童期の子どもたちが、実際にプロの表現者と接することは、とても貴重な体験だと思います。中でも演劇の体験や演じることは、緊張感もありますし難しいことですが、観ている人から拍手をいただくことで達成感を感じ、自信が生まれ、次のステップにつながる挑戦力が育まれたりするのかなと思いました。また、年齢の違う子どもたちの交流は、何かの時に大きな絆にもなると思います。私は、まちづくりは人づくりだと思っているのですが、このような表現者と接する体験は、人づくりにつながる、とても素敵なことだと思いました。ぜひ継続してこの活動を続けていただけたらと思います。

子どもの居場所と朝食提供事業

発表者
藤沼 壮次さん



はばたき支援コース

申請額

1,100,000円

助成額

471,142円

助成金の主な使いみち

食材費、光熱費、保険料

活動の目的

支援を必要としている子どもや高齢者への支援を通じて、下町人情豊かな地域社会づくりや子どもの健全な発達を促していきます。



▲発表当日の藤沼さん

活動内容

不登校の子どもへの支援、子どもの貧困への支援、その他高齢者や子どもなど、社会的弱者の方への支援を実施。具体的には不登校生徒への居場所と昼食提供事業、夏休みなどの長期休暇中の昼食提供事業などを行っています。



活動の成果

不登校生徒への居場所と昼食提供事業は、毎週火・木・金で行っており、参加登録者数は7名、参加人数は延べ171人となりました。また、長期休暇中の昼食提供事業については、夏休みは毎週火・木・金、冬休みと春休みは土日を除いた月～金曜日に実施しました。33日間の実施で参加人数は延べ313名となりました。子どもたちから居場所として喜ばれています。



次回活動に向けて

今後もこれまでの事業を継続していきたいと考えていますが、事業の周知不足により、居場所を必要とする子どもたちとの間でミスマッチが起きていると感じています。今後は、学校や行政とより緊密に連携し、一人でも多くの子どもたちに居場所を提供していけるようにしたいと考えています。



▲夏休み昼食提供準備の様子



▲長期休暇中の昼食提供配膳の様子



▲不登校生徒の居場所食事風景



▲長期休暇中の不登校生徒への食事準備

運営委員会からコメント

地域をこえた、広範囲での居場所づくりを

こちらの事業には、第7地区でというルールがあると思うのですが、他地区にはない良い取り組みだと思います。第7地区に限定せず、もっと広範囲に展開していただけると、ありがたいなと思います。また、不登校というと小中学生をイメージされていると思うのですが、区内では、高校生や、高校を中退してしまう子の受け皿がなく、行き場所がないことが問題となっています。小中学生までは、まだ学校の先生との接点があるのでよいのですが、視野を広げて高校生世代から二十歳ぐらいまでの方に対応していただけると、それで助かる子がたくさん出てくるのではないかと思いますので、ご検討いただけますと幸いです。

第18地区(中川地区)における 町会・自治会タイムラインの作成

発表者

荒木 優弥さん(左)

今坂 昭男さん(右)



はばたき支援コース

申請額

690,000円

助成額

616,669円

助成金の主な使いみち

会議運営支援委託費、資料・
チラシ印刷費

活動の目的

荒川の氾濫が発生するという最悪の事態に対して、町会・自治会がどのように対応するのか、荒川の氾濫に備えたコミュニティ・タイムラインの作成を通じて検討することを目的とします。

活動内容

第18地区水害対策委員会では、平成30年度からタイムラインの検討を開始し、中川、荒川の決壊・氾濫に備えたコミュニティ・タイムラインを作成しました。本活動は、両河川の氾濫に備え、足立区の庁内タイムラインと連動した統合版コミュニティ・タイムライン策定のための検討会議開催、取り組みの周知を実施したものです。



▲発表当日の今坂さん



活動の成果

区が作成した災害時要支援者名簿が、発災後にしか使用できない課題が議論され、町会・自治会が独自に使用できる簡易版要支援者名簿を作成し試行しました。また、中川・荒川の各想定で混在していたコミュニティ・タイムラインを、足立区の庁内タイムラインや他地区のタイムラインとステージを合わせた統合版へと深化させました。



次回活動に向けて

統合版コミュニティ・タイムラインの策定により、地域で声をかけ合い早期に避難を行う手法が一定程度確立できました。今後は、地域で把握できていない要支援者の把握、個別避難計画の作成と連携した形でのコミュニティ・タイムラインの更新などを実施していきます。



▲2022年9月17日 第1回検討会議



▲2022年12月17日 要支援者の避難を考える検討会



▲2023年7月8日 第2回検討会議



▲2023年8月28日 第3回検討会議

運営委員会からコメント

防災行動の指針となる「コミュニティ・タイムライン」の作成

先駆的な取り組みであり、区でも関原地区や荒川周辺で対応が進んでいます。これまで災害対策というと地震対応だけでしたが、今は水害対応も欠かすことができません。水害に関しては、事前に情報提供ができること、避難行動が想定できることなど、このタイムラインがあることによって防災行動が整理できるため非常にいい取り組みだと思います。また、災害発生後にしか使用できない災害時要支援者名簿に関する課題も、独自に使用できる簡易的な要支援者名簿を作成し、試行するなど、非常に細かく対応されています。今後も区と連携しながら、この取り組みを続けていただければと思います。

あだち子どもの日本語教室

発表者

山田 拓路さん



はばたき支援コース

申請額

2,000,000円

助成額

1,952,604円

助成金の主な使いみち

教材・教具等購入費、講師謝礼金・交通費



▲発表当日の山田さん

活動の目的

外国籍児童が特に多い竹の塚、新田、伊興周辺における日本語教室の開催を通じて「誰ひとり取り残されない社会」の実現に資することを目的とします。

活動内容

竹の塚、新田、伊興の3地域で、外国にルーツを持つ子どもたちが日本語を学ぶ場を拡充する事業を行っています。日本語指導が必要な学齢期の児童生徒に対し、日本語教師有資格者による日本語教育を実施。さらに外国ルーツの幼児も受け入れ、工作や歌、読み聞かせなど、楽しみながら日本語に親しむ機会を提供しています。

活動の成果

3教室合計で111回（1回あたり2時間）開催し、参加者は全54人、延べ1,070人となりました。来日直後で日本語が全く分からず学校で孤立していた子どもを、同じ言語話者の先生がおしゃべりを通じて受容したケースなど、子ども一人ひとりの言語習得にとどまらない全人的な成長に寄り添うことができたと考えています。

次回活動に向けて

伊興教室を竹の塚教室と合併し、現在は2教室体制で活動を継続しています。教室では廉価ながら参加費を徴収、困窮世帯の子どものためには寄付を募るなどして安定した運営の仕組みづくりに努めています。区の多文化共生担当や教育委員会、区内NPOと連携し、足立区全体でより良い支援体制を構築できるよう尽力しています。



▲はじめての「ひらがな」の勉強に頭を抱える幼児



▲家の中にあるものの語彙を学ぶ幼児



▲母語を介して漢字の学習をする小学生



▲工作の時間を通じて自然な日本語に触れる機会を増やしています

運営委員会からコメント

多文化共生の実現に向けて、事業の発展継続を

足立区においては、今後、外国籍の方が、ますます増えていくだろうと予想される中、外国にルーツを持つ子どもたちの日本語教育に取り組んでいただいていることは、非常に重要な事業だと思います。実感として、外国籍の大人の方でも、日本語をあまり理解されていないと感じられる方が少なくない中、この事業をきっかけに、子どもたちから親御さんへの方向性で、日本語の理解が進めばありがたいなと思います。また、東京都の助成金の検討など、トラスト助成後も視野に入れ、計画的に運営されているので、ぜひ今後も区との連携により多文化共生の実現に向けて、しっかりと取り組んでいただけたらと思います。

千住QR観光振興事業

発表者

中嶋 喜文さん(左)

時沢 実さん(右)



はばたき支援コース

申請額・助成額

1,980,000円

■ 助成金の主な使いみち

QR観光用動画制作費、案内チラシ作成費

活動の目的

千住地域の案内スポットにあるQRコードをスマートフォンで読み取ることによって観光資源情報が得られ、気軽にまち歩きや子どもたちも地域のことを知ることができます。地域活性化とコミュニティ形成への寄与を目指していきます。

活動内容

最も身近なインフラとなったスマートフォンを活用し、QRコードを読み込むことで、まちのガイド動画を楽しむことができる新たな情報発信を行っています。令和5年8月時点で千住地域15か所の観光スポット・史跡に「千住QR観光プレート」を設置。若年層を中心とした多くの方に千住地域の観光資源情報をお届けしています。



▲発表当日の中嶋さんと時沢さん

活動の成果

QRコードをスマートフォンで読み取るだけで千住地域の情報を手軽に入手できるため、千住の歴史文化に関心のある方の需要に十分に対応できるようになりました。また、地域の郷土情報を共有することから芽生える連帯感が、まちづくりに大きな効果をもたらすと考えています。

次回活動に向けて

「千住開宿400年」事業として、2025年度までに千住地域内合計46か所に「千住QR観光プレート」の設置を計画。地域情報の共有から、千住に暮らす人々の連帯感を高めることで「住みよいまちづくり」に貢献できると考え事業を推進しています。今後も「住んでよし・訪ねてよしの魅力あるまちづくり」の実現に向けて活動を継続します。



▲千住QR観光街歩きチラシ



▲QR観光マップ



▲JR北千住駅改札口設置



▲紹介「勝専寺 (赤門寺)」



▲紹介「名倉医院」

運営委員会からコメント

千住開宿400年に向けて、今後の活動の広がり期待

ご報告を聞いて、よく調べられているなと感じました。先ほどの橋戸稲荷は、伊豆長八の鰻絵(こてえ)がある所かと思いますが、とても有名な鰻絵だということをも存じ上げています。QRコードを設置して、区内外の方に、千住の魅力や歴史を知っていただくことは、とても良い取り組みだと思いました。また、令和7年は「千住開宿400年」。江戸四宿、千住、品川、新宿、板橋のなかでも千住は、大きな宿場町であり、改めて関心を持っていただければと思います。最近、スマートフォンがないと何もできない時代になりつつありますが、その意味でも理にかなった取り組みだと感じました。

千住地域での映画制作及び上映事業

発表者

工藤 理佳子さん(左)

工藤 康浩さん(右)



はばたき支援コース

申請額・助成額

900,000円

助成金の主な使いみち

撮影関係物品費、上映会場使用料、講師謝礼金

活動の目的

あだち発「市民による映画アート活動」を通し、価値観や世代、国籍、性別、職業の違い等多様な人々とのコミュニティ活性化、生きた市民文化活動になることを目指します。



▲発表当日の工藤さん

活動内容

年に一度の映画祭に向けての自主映画制作、北千住駅前大型ビジョンのコンテンツ制作、千住で生まれた市民アート活動の区外への発信、港区での区外屋外上映会開催（参加人数20名）などの活動を行っています。作品は、アーカイブをBlu-rayで頒布。10周年に向けての活動誌は、すべて手作りを基本に制作することが決定しています。



活動の成果

町会、大学、商店街の協力による、まちなかでの撮影が、まちの記録となりました。また、活動誌制作に向けたデータベース化への取り組みがスタート。駅スタンドへのチラシ設置によるPRやGW初日の映画祭開催により遠方（広島、神戸）からの来場者もあり、広範囲へのあだちの魅力発信が可能となりました。



次回活動に向けて

助成を受けた5年間で、運営上の見直しと改善を繰り返してきました。制作面では、映画を手作りする過程で多くの協力を得るボランティア事業であることを再認識。今後は、区内外の団体、学習センターなどとの連携を強化し、あだちの魅力発信と多様な人々に寄り添うボーダーレスな文化事業としての活動を継続していきます。



▲一般市民出演者を交えた制作会議



▲千住旭町会のご協力で、路地にて撮影



▲学生実習生制作の撮影風景



▲毎週金曜夜「知ら路地ナイトシアター」30分番組。
制作ショートムービーのオムニバス放送

運営委員会からコメント

映画を通じた足立区の魅力発信、さらなる広がりを

短めの映像作品にしか触れる機会がなかったのですが、次は本格的な作品も観たいと改めて思いました。今回がトラスト助成最終年ですが、ビジョンや活動のプランニングもきちんとされているので、しっかり実践していただくことを、ぜひお願いしたいと思います。報告においては、足立区外にも飛び出して活動されている様子がわかり、独自のスタイル、エネルギーで、区の魅力を各所に届けてくださったのかなと感じました。今後の活動にますます期待をしています。

はなはた文教マルシェ

発表者

坂巻 涼太さん(左)

池宮 祐さん(右)



はばたき支援コース

申請額

2,000,000円

助成額

1,836,704円

助成金の主な使いみち

会場設営委託費、チラシ・ポスター作成・印刷費

活動の目的

大学、地域住民、地域事業者、地域の団体が一体となりイベントを開催することで、地域の活性化、コミュニティ形成の促進を目指していきます。

活動内容

大学と周辺地域住民のより良い関係を構築すべく大学キャンパスを開放、地元企業によるワークショップ・飲食提供・販売マルシェ、大学生や地域住民による各種パフォーマンス等を実施。地域住民との関係強化を図ると同時にSDGsへの普及啓発活動を実施しました。



▲発表当日の池宮さん



活動の成果

花畑大鷲神社の神太鼓演舞や、大学のゼミ生によるブース出展など、さまざまな団体との連携により、3,000人以上の方々にお越しいただくことができ、大学と周辺地域住民との関係強化を図ることができました。全出展者の売上合計は約165万円。出店者の反応も良く、紹介などで新たに出店を希望される企業も多数現れました。



次回活動に向けて

前年度の活動成果に加え、さらなる地域住民との交流を深めるべく、好評であったキッチンカーを増台。さらに学生との接点も増やすべく、ゼミ単位でのブース出展を前回よりも増やしました。今後は、新たに「カーボンオフセット」の取り組みを行うことで、温室効果ガスの排出削減にも努めながら活動を継続します。



▲オープニングを飾った花畑西小学校の金管バンド部の演奏



▲足立区と友好都市である栃木県鹿沼市の商品販売ブース



▲好評だったキッチンカーの様子



▲ブース出展していただいた文教大学のゼミの学生さん

運営委員会からコメント

マルシェを盛り上げ、地域とのつながりのさらなる活性化を

足立区の大学というと、区の南側にキャンパスが集中していますが、文教大学が区の北側にキャンパスが来てくれたこと、北側の住民の私としては、本当に嬉しく思っています。我々としては、そこで地域の方々と学生の交流を期待していたわけですが、今回、はなはた文教マルシェを開催していただき、3,000人を超える方に来場していただけたとのこと、本当に評価すべきことだと感じています。これからますます地域の皆さまと大学生の交流の機会は、増えていくと思います。今後も継続して、このはなはた文教マルシェ、さらに盛り上げていっていただければと思います。

足立区音楽祭 代表者 田中 美雪さん

身近な活動コース

申請額・助成額

300,000円

■ 助成金の主な使いみち
ステージイベント撮影・
映像編集費

活動の目的

足立区地域に密着した形で音楽イベントを開催し、演じ手、聞き手の観点から音楽のすばらしさに触れていただけることを目指しています。

活動内容

プロ・アマチュアを問わず足立区で活動している音楽関連団体が集まり、毎年、音楽イベントを実施しています。足立区役所のアトリウムや都市農業公園、竹の塚センターのホールやギャラクシティ西新井文化ホールにて、さまざまなジャンルの音楽ライブを開催しています。

活動の成果

トラストの助成金を活用して、音楽祭各会場の様子を撮影し、映像化することができました。この映像を、今後のプロモーションとしてさまざまな形で活用していくことを考えています。

次回活動に向けて

次回、足立区音楽祭は、第20回の節目の年となります。さまざまなジャンルの音楽がひとつとなり開催される足立区の音楽イベントとして、今後もよりよいものをお届けできるよう活動していきます。



▲小さなヴァイオリニストが
素敵な演奏を聴かせてくれた



▲Latin Jazz Orchestra。
足立区職員からなるバンド



▲音楽祭唯一のミュージカル「もみの木」



▲区立第六中学校吹奏楽部。
中学生の素敵な演奏を披露

No.22 足立区竹ノ塚ママとベビー・キッズのコミュニティ Koen

てらまちハウスぽけっとパーク 代表者 山本 亜紀子さん

はばたき支援コース

申請額

1,000,000円

助成額

628,780円

■ 助成金の主な使いみち
ぽけっとパーク設営工事
費、マップ(2,000部)製
作費

活動の目的

親子が集まる「てらまちハウス」へ地域の方が自然に入りやすい空間づくりやイベントを開催することで、多世代のつながりや子どもや高齢者を見守り合う関係づくりを目指します。

活動内容

「てらまちハウスぽけっとパーク」のさらなる公益性を目指し、多世代のつながりや互いを見守りあう関係が築けるようハウスを活用した催しを実施。その他「伊興寺町おさんぽマップ」を作成・配布し、地域子どもたちがまちの歴史を知り、自分たちの暮らすまちに愛着が持てるよう、まち歩きイベントを開催しました。

活動の成果

乳幼児親子向けと認識されがちだった「てらまちハウス」で、さまざまな世代を対象にした催し（「目指せ！やさい博士」（8名参加）、「てらまち探検隊」（23名参加）等）を実施することで、多世代の交流が生まれ、より地域に開かれた場所となりました。また「いこうてらまち歩き」を、町会長さんや地域の施設と連携して行うことで、地域子どもたちを地域で見守りあう関係性を築くことができました。

次回活動に向けて

事業をきっかけにつながった地域の方や団体と、今後も継続的に関わり「いこうてらまち歩き」などの催しを恒例行事として開催していきたいです。また、地域包括支援センターや地域学習センターなどと連携し、地域の多世代の方と交流し「見守りあえる、安心して住みやすいまちづくり」に貢献していきたいと考えています。



▲いこうてらまち歩き



▲夏休みに開催した地域に農家による
農業や野菜についてのお話会



▲てらまちハウスぽけっとパークで
開催した野菜販売



▲てらまち農園

〈街並み空間・自主管理歩道コース〉

No.23 フラッツ北千住管理組合

申請額・助成額
2,230,000円

整備内容

部分的に沈下した自主管理歩道の補修工事



▲歩道の改修等を行い、安全な歩行ができるようになりました。

No.24 レコシティ・グランデ管理組合

申請額・助成額
1,940,000円

整備内容

自主管理歩道および公開空地のガタツキや沈下の補修工事



▲桜の木などの根上がり対応や歩道の地盤沈下の補修工事を行い、樹木と歩行者の安全を確保しました。

No.25 シテヌーブ北千住30団地管理組合法人

申請額・助成額
2,990,000円

整備内容

経年により枯死した桜等の植栽



▲桜やツツジの植栽を行い、憩いの並木道になりました。

No.26 トーキョーガーデンズスイート管理組合

申請額・助成額
3,000,000円

整備内容

広場の芝が枯死したため、人工芝へ改修



▲土がむき出しの場所が憩いの場になりました。

助成活動団体一覧

●学生コース（助成限度額10万円以内）

No.	助成回	団体または個人名	事業内容	助成金額
1	R4①	小坂 亮輔	隅田川の広い空を生かして、幼稚園から小学校の子どもと保護者を対象に星空観望会を2回実施し、子どもたちへ自然に触れる機会を提供した。	100,000
2	R4②	文教大学 清水ゼミナール	五反野の銭湯文化の継承および地域活性化のため、若い世代に向けて、キャラクターを用いた銭湯や専門店を紹介するマップや動画を制作した。	8,735

●身近な活動コース（助成限度額30万円以内）

No.	助成回	団体または個人名	事業内容	助成金額
③	R4①	足立区音楽祭実行委員会	足立区全体に音楽のすばらしさを広めるため、コロナ禍でもインターネットを利用した宣伝、配信を駆使して、より多くの足立区民に音楽に触れてもらう機会をつくった。	300,000
4	R4①	特定非営利活動法人 ベーゴマ普及協会	ベーゴマを通して、子ども・高齢者の居場所をつくと共に、学校、児童館、障がい者施設でのベーゴマ教室及び地域商店街等でのベーゴマ大会を開催した。	300,000
5	R4①	Challenged Challenge	障がい者アート展覧会を開催し、地域と障がい者との交流会の場を作り、障がい者への理解を持ってもらうことで、ハンディキャップへの偏見をなくす活動を行った。	247,189
6	R4①	NPO法人 わんわんサポーター綾瀬	都立東綾瀬公園との協働事業として、愛犬飼育管理士による幼犬の社会性の醸成と飼い主のマナー説明、交流会で住民間の相互扶助の醸成、プロ訓練士によるしつけや災害時の訓練等を実施した。	300,000
7	R4②	特定非営利活動法人 あだち音楽文化の会	第5回ギャラクシティ音楽コンクール入賞者披露演奏会を開催し、足立区の音楽文化の普及、地域の活性化につながる活動を行った。	300,000
8	R4②	古川 朋弥	地口行灯と江戸の伝統玩具すげんぼを紹介する展示形式のイベントを開催し、地域住民や北千住を訪れる人々に江戸時代を起源とした遊び心あふれる庶民の文化や千住周辺の街の魅力を再発見してもらう活動を行った。	300,000

●はばたき支援コース（助成限度額 総額500万円以内（5回まで／各回200万円以内））

No.	助成回	団体または個人名	事業内容	助成金額
9	R3①	特定非営利活動法人 エコロジー夢企画	花畑川を活かしたまちづくりの推進活動で花畑川に関する様々な文献や資料を入手し、花畑川に関する図録を作成した。	2,000,000
10	R3①	防災ラジオ足立区準備室	防災情報を集積し、「防災マインド」を伝える番組を、だれでも学べるコンテンツとして制作した。	1,004,773
⑪	R4①	足立区竹ノ塚ママとベビー・キッズのコミュニティ Koen	令和3年3月にオープンした「てらまちハウス」の庭を整備した。[伊興寺町おさんぽマップ]を作成・配布し、地域の子どもたちがまちに愛着が持てるようなまち歩きや、まちの歴史を知るイベントを開催した。	628,780
12	R4①	特定非営利活動法人 Chance For All	令和3年7月にフリースペースを併設して開設した駄菓子屋は、こども、保護者、シニアの方の居場所となっている。外国にルーツを持つ子どもたちへの支援、学習支援、不登校支援、自然体験活動等を行った。	2,000,000
13	R4①	路地裏アートプロジェクト in 西新井大師	西新井大師北参道で、若手芸術家のアート作品展示にダンスを組み合わせた多世代交流を行い、シャッター街になっている西新井大師裏の地域を活性化する活動を行った。	1,048,229
14	R4②	あだちコンポスト委員会	足立区内の各家庭や飲食店の生ごみを収集し、資源利用した堆肥づくりと、その堆肥を施用した有機野菜づくりを行った。生ごみという本来循環可能な資源を活用した地域内の活性化と食を通じた賑わいのあるコミュニティ形成の活動を行った。	845,137
15	R4②	一般社団法人 チョイふる	地域から孤立しがちな子育て家庭を対象に、子ども食堂「あだちキッズカフェ」に、遊びの体験をプラスした、家とも学校（職場）とも違う第三の居場所の提供を行った。	1,983,080
16	R4②	一般社団法人 ほしかぜ	表現活動の稽古およびワークショップ「子ども表現堂」を開催した。子どもたちがプロの芸術表現等を吸収し、自らを表現する場を設け、豊かな心と表現力を育む活動を行った。	779,786
17	R4②	第7地区子どもの居場所づくり実行委員会	不登校支援事業、学校長期休暇時の昼食提供事業、高齢者を対象とした交流拠点の提供等を行い、下町人情豊かな地域社会づくりや子どもの健全な発達を促した。	471,142
18	R4②	第18地区水害対策委員会	これまでに中川の決壊・氾濫に備えたコミュニティ・タイムラインを作成したが、今回は、荒川の氾濫に備えたコミュニティ・タイムラインを策定し、その取り組みを地域住民へ周知した。	616,669
19	R4②	特定非営利活動法人 メタノイア	外国にルーツをもつ子どもの日本語教育・保育の場として、「あだち子どもの日本語教室」を運営した。また、地域の社会的インフラとして安定的に機能するよう、地域の多様な機関と連携した。	1,952,604
20	R4②	NPO法人 千住文化普及会	観光スポットにQRコードを設定し、スマートフォンで読み取ることで、ガイド動画を視聴できるようにして、千住地域の観光資源情報を届ける活動を行った。	1,980,000
21	R4②	知らない路地の映画祭制作委員会	商店街、町会・自治会、地域住民の方々の協力による自主映画制作を行い、それを手づくりの映画祭で上映することにより、コミュニティを活性化する活動を行った。	900,000
22	R4②	はなはた文教マルシェ実行委員会	文教大学東京あだちキャンパスにて、大学および地域事業者や地域町会を巻き込んだイベントを開催し、大学と地域の交流の場を作り、地域の賑わいを創出する活動を行った。	1,836,704

●街並み空間・自主管理歩道コース（発表なし）（助成限度額300万円以内）

No.	助成回	団体または個人名	事業内容	助成金額
23	R4①	フラッツ北千住管理組合	沈下が見られる自主管理歩道を、安全な歩行ができるよう補修を行った。	2,230,000
24	R4①	レコシティ・グランデ管理組合	自主管理歩道、公開空地のインターロッキングのひび割れや沈下などを補修し、歩行者の安全を確保した。	1,940,000
25	R4②	シテヌーブ北千住30団地管理組合法人	経年により枯れてしまった桜の植替えと開花の美しいツツジの植栽を行い、隅田川護岸の桜並木の風景・街並みの景観向上を図った。	2,990,000
26	R4②	トーキョーガーデンズスイート管理組合	芝が枯れ、土がむき出しの場所に人工芝を敷いて景観の向上を図った。緊急時は待機場所として利用する。	3,000,000

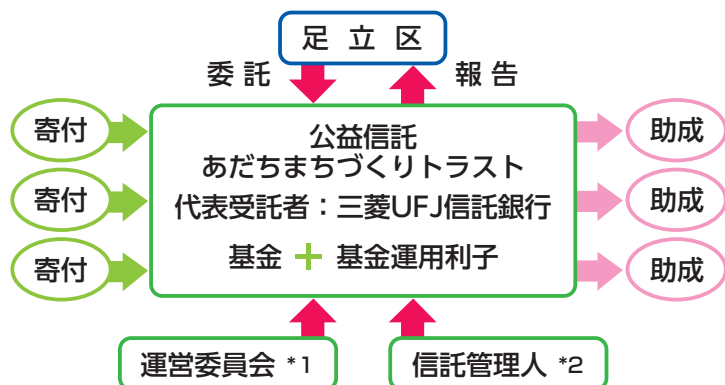
※No.に○がついている団体は成果報告会欠席者。

公益信託あだちまちづくりリラスト 助成制度のご案内

区民のみなさまの創意工夫あふれる自主的なまちづくり活動を応援します。

■ まちづくりリラストのしくみ

当基金は、助成事業を通じて快適で文化的なふれあいのあるまちの創造に寄与することを目的としています。この趣旨にご賛同くださる方からの寄付金を、公益信託法に基づき足立区が信託銀行に委託し、運用益等でまちづくり活動を行う個人又は団体に助成しています。



*1 運営委員会…助成先の選考にかかる諮問機関

*2 信託管理人…受託銀行の職務執行を監督

■ 助成コース

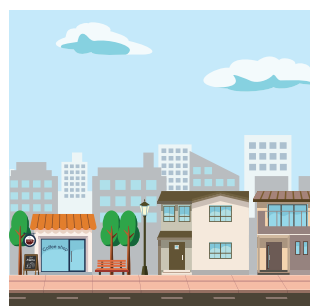
助成コース名	助成対象者	助成限度額	助成回数
学生コース	個人又は団体（中・高・大・大学院生に限る）	10万円以内	3回まで
身近な活動コース	個人又は団体	30万円以内	5回まで
はばたき支援コース		総額500万円以内（各回200万円以内）	5回まで
イベント・整備活動コース		300万円以内	1回限り
街並み空間・自主管理歩道コース	個人又はマンション管理組合等	300万円以内	条件なし

1. あだちまちづくりリラスト 運営委員（10名）

No.	区分	氏名	所属等	No.	区分	氏名	所属等
1	運営委員長	清水 麻帆	文教大学 准教授	6	運営委員	石毛 かずあき	足立区議会議員
2	運営委員	松井加奈絵	東京電機大学 准教授	7	運営委員	くじらい 実	足立区議会議員
3	運営委員	鈴木 圭子	足立区まちづくり推進委員会委員	8	運営委員	松野 美幸	足立区総務部長
4	運営委員	松沼 勝	足立区まちづくり推進委員会委員	9	運営委員	依田 保	足立区地域のちから推進部長
5	運営委員	吉満 明子	(株)センジュ出版 代表取締役	10	運営委員	真鍋 兼	足立区都市建設部長

2. あだちまちづくりリラスト 信託管理人（1名）

No.	区分	氏名	所属等
1	信託管理人	久保 一夫	税理士



閉会挨拶（久保信託管理人）

助成を受けられた皆さまのボランティア精神や素晴らしいアイデアにより、助成金の価値が何倍にも高められていると感じました。とても良いサービスを提供されていると思います。申請時のプレゼンには、私も立ち合わせていただいたのですが、お話を伺って、ど

のように成果をあげるのか、私には想像もつかないような提案もありました。しかし、そこはやはり委員の方の厳しい審査をクリアして助成を受けられた方々の活動だけあり、本当に素晴らしい成果を出されていると思います。本日は、ありがとうございました。

■ 助成対象事業

(1) まちづくりの調査・研究等を行う個人又は団体への助成

ア 住み続けられるまちに関すること

- A 水辺や緑地などを活かしたまちづくりに関する調査・研究・活動
- B 住み心地のよいまちに関する調査・研究・活動
- C バス網や新線に関する調査・研究・活動

イ 安心・安全に暮らせるまちづくりに関すること

- A 地震災害や水害災害に備える防災まちづくりに関する調査・研究・活動
- B ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりに関する調査・研究・活動
- C 身近な防犯まちづくりに関する調査・研究・活動

ウ あだちの魅力づくりに関すること

- A 地域特性を活かしたまちづくりに関する調査・研究・活動
- B 地域が守り育てる景観まちづくりに関する調査・研究・活動

エ 地域の魅力を発掘し、情報を発信する取組みに関すること

- A 地域の歴史文化を伝える取組みに関する調査・研究・活動
- B 文化芸術のまちづくりに関する調査・研究・活動
- C 子どもたちが健やかに成長していく環境の支援に関する調査・研究・活動

オ 区政の課題に関すること

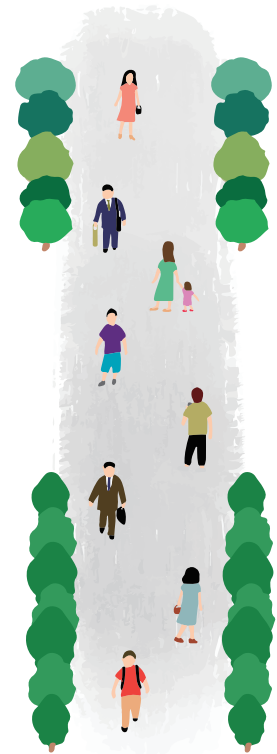
A 区のボトルネック的課題（4つ）に関する調査・研究・活動

- ① 治安向上に関する調査・研究・活動
- ② 学力向上に関する調査・研究・活動
- ③ 健康に関する調査・研究・活動
- ④ 困窮の連鎖に関する調査・研究・活動

B 区民の関心が高い課題、テーマに関する調査・研究・活動

C 区のイメージアップ貢献に関する調査・研究・活動

D 区民生活に影響を及ぼす課題、問題に関する調査・研究・活動



(2) 公園・道路等公共施設内において、ふれあいのある快適な都市景観の整備等の活動を行う団体への助成

ア 身近な公共施設の舗装・標識等の改善によるまちの美化、都市景観の整備活動

イ 身近な公共施設への街路備品の設置を通じたふれあいのあるまちづくり活動

ウ 公園・道路・堤防、公共施設建設予定地などを花や樹木により美化する活動

(3) 公開性の高い民地において、ふれあいのある快適な都市景観の整備等の活動を行う個人又は団体への助成

ア 公開性の高い民地の舗装・標識等の改善によるまちの美化、都市景観の整備活動

イ 公開性の高い民地に街路備品の設置を通じたふれあいのあるまちづくり活動

ウ 公開性の高い民地を花や樹木により美化する活動

エ 自主管理歩道の連続性向上に資する目的で行う、自主管理歩道築造及び障害物除去に係る工事

オ 区の指定する重要樹木の保全活動

カ 区の指定する歴史的・伝統的建造物等の保全活動

(4) その他目的を達成するために必要な事業

主に受託者又は委託者が行う活動が対象であり、個人又は団体が行う活動の場合はトラスト運営委員会が認めた場合に限る。

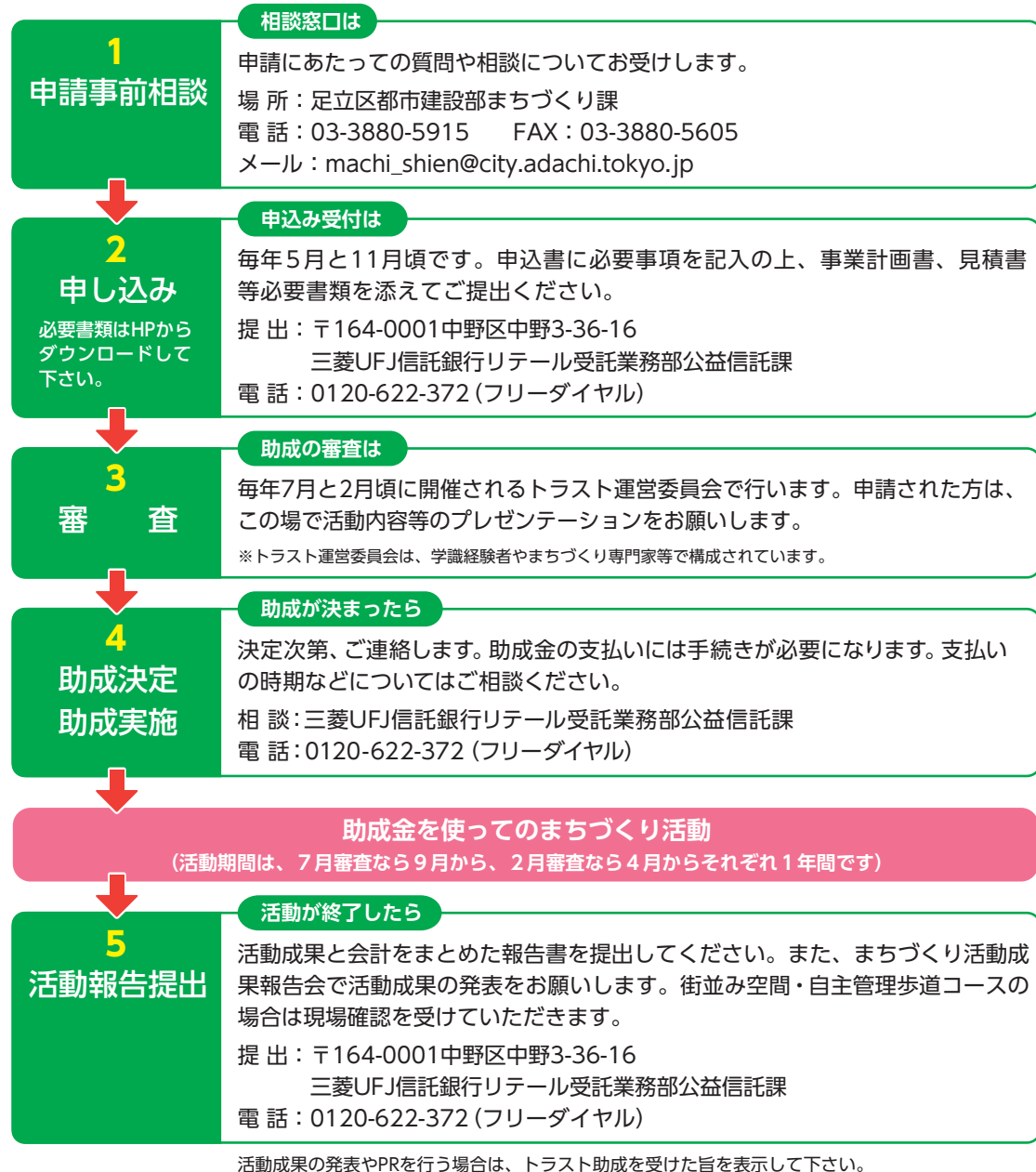
ア まちづくり講演会、ワークショップの開催等の活動

イ まちづくり活動及び事業実施に伴う視察会等の活動

ウ まちづくり活動の輪を広げる PR イベントの開催の活動

エ トラストの活動報告、発表会、記念式典の活動

／ トラストの申請方法 ／



トラストを受ける条件

- ① 営利を目的としない活動であること
- ② 団体の運営や代表者の選任方法が、会則、規則等で決まっていること
- ③ 同一内容の企画で区又は区の関係団体から助成を受けていないこと
- ④ 宗教・政治活動を目的としない活動であること
- ⑤ 社会の秩序や安全に脅威を与え、社会の発展を妨げる団体及びその構成員、個人でないこと

お問い合わせ

申請相談

足立区都市建設部 まちづくり課管理調整係

TEL 03(3880)5915(直) FAX 03(3880)5605 〒120-8510 足立区中央本町1-17-1

メール：machi_shien@city.adachi.tokyo.jp

代表受託者(申請書類提出先)

三菱UFJ信託銀行

フリーダイヤル

リテール受託業務部公益信託課 0120(622)372

〒164-0001 中野区中野3-36-16

公益信託
あだちまちづくり
トラストHP



<https://adachi-trust.jp/>